

サンタタウン誕生へ



サンタ搜索に関して、歴史的・一歩となるようなニュースが飛び込んだ。サンタ搜索チームは、札幌市と「サンタ搜索協定」を結んだことを発表。第一弾として、札幌市のシティブロモット戦略で用いられている「サッポロスマイル」マークを活用し、市を挙げてサンタ搜索に取り組んでいくことが明らかとなった。「サンタタウン」となるべく動き始めた札幌市。関係者への取材を通して、世界でも類を見ない協定締結に動いた背景と、その意義に迫る。

搜索に市民の力を結集

札幌市の飲食店や観光スポットでおなじみの「サッポロスマイル」マーク。このマークをサンタ搜索の大きな力にできないかと、搜索チームは以前から注目していた。半年前、札幌市に初めて接触。以降、水面下で打ち合わせを重ね、今回の協定締結に至った。札幌市は既存の「サッポロスマイル」マークに、一目でサンタを思わせる帽子のイラストを加えた新ロゴマークを発表。また、既存マークに同様のイラストを描くだけでも問題を狙うという。このロゴマークの掲示により、「サンタ搜索に協力する」意思表明となると、魅力的な多くの観光客に恵まれている札幌には笑顔があふれており、人が集まってくる。言葉の壁を越えて、気持ちを伝える笑顔は、観光客を迎えるホスピタリティにもなる。そんな札幌をイメージし「サッポロスマイル」のロゴマークは制作された。今回、札幌市ではこのマークをサンタ搜索のために活用することで、市全体がサンタを歓迎する雰囲気包まれる効果を狙うという。この特別協定について、上田市長は「札幌市は、世界に誇る観光地である。市民皆様の笑顔が、世界に誇る観光地である。市民皆様の笑顔が、世界に誇る観光地である。市民皆様の笑顔が、世界に誇る観光地である。」と述べた。



新たなロゴマークを掲げ、協定締結について語る上田文雄札幌市長＝20日、札幌市役所



今回発表された新ロゴマーク

笑顔が搜索の力に

札幌市では、既に「サッポロスマイル」マークを掲出している店に対し、サンタ搜索の協力を呼び掛けている。サンタを捜す子どもたちから質問が出ること、想定されるため、対応マニュアルの制作も検討中。また、サンタ搜索のための「サンタコール」を新設する方向だという。200万

親愛なるサンタさんへ

メッセージカード、札幌市が制作

今月末配布予定の靴下型カード。札幌市では、靴下型のメッセージカードを作って子どもたちに配布、サンタを招き入れる施策を展開する。カードにサンタに向けてのメッセージを記入し、クリスマススイフトにドーナツに引っ掛けておくことで、サンタを迎えるというものである。このメッセージカードは、ミュンヘンクリスマス市の札幌駅前通地下歩行空間会場、12月2日(月)から配布される予定。また、札幌市役所ホームページ内 (<http://www.city.sapporo.jp>) からダウンロード可能。札幌市長政策室・松

サンタさん来てね

テレビ塔でキャンドル点灯



サンタへの願いを書いても「愛のキャンドル」

サンタを招き、みんなの願いを届ける。そんなコンセプトを掲げたプロジェクトが行われている。札幌市中央区のさっぽろテレビ塔(大通西1)では、愛のキャンドル500個プロジェクトと銘打ち、キャンドルキャップホルダーの販売を12月24日まで行う。カップホルダーの販売価格は350円(展望台入場者は300円)。カップホルダーは書いて点灯させた後、12月23・24日のイベントまでテレビ塔で預かり、イベント終了後は30日までの間、希望者に返却も行うという。さっぽろテレビ塔の長堀昭人マネージャーはこう語る。「幻想的なキャンドルアートでサンタを招き、多くの人の願いを届けるお手伝いができればこんなにうれしいことはありません。みんなで力を合わせてサンタを呼び寄せよう。」

サンタ 搜/索/人/

「トナカイリーダー」を開発、サンタ研究の第一人者 アダムスキー 博士 (66) George Adamski

サンタ研究に明け暮れ、著えられた白いひげがサンタクロースを思わせる。旭川市の旭山動物園で水中を泳ぐように泳ぐペンギンにヒントをもらい、実験を重ねてトナカイの飛行原理を解明。赤鼻から発せられる特殊な熱を感知する「トナカイリーダー」を開発し、世界中の注目を集めたジョージ・アダムスキー博士。アメリカ・カリフォルニア州出身、日本人の妻との間に3人の子がいる。昔、子どもたちからは「サンタさんを困らせないで」と怒られたが今は応援してくれている。「今年こそ北海道の子もたちにいい知らせを届けたい。」飛行機部隊の特別顧問として奮闘する彼が、搜索のカギを握る。今年も追いかける準備は万全だ。

クリスマス連載コラム SANTA NOTE サンタ・ノート

わが子が主人公 世界に一つの絵本

「ウィッシングブック」という絵本を、主人公を自分の子どもに名前にする。ことができ、近年では世界に二冊だけの絵本のプレゼントとして人気を集めている。

この本の始まりは1980年、カナダの児童心理学者が絵本の主人公を自分の子どもに名前にかえて読んで聞かせたとき、目を輝かせて喜んだ姿を見て、オリジナル絵本の制作を思い付いたことから。クリスマスは誰もが物語の主人公になれる時。今年のクリスマス、あなたはどんな物語に自分を重ねるだろうか。

企画制作／北海道新聞社広告局

この広告企画は、お子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。次回は11月末朝刊予定